

地域の感染症対応力アップ 施設向け感染対応マニュアル

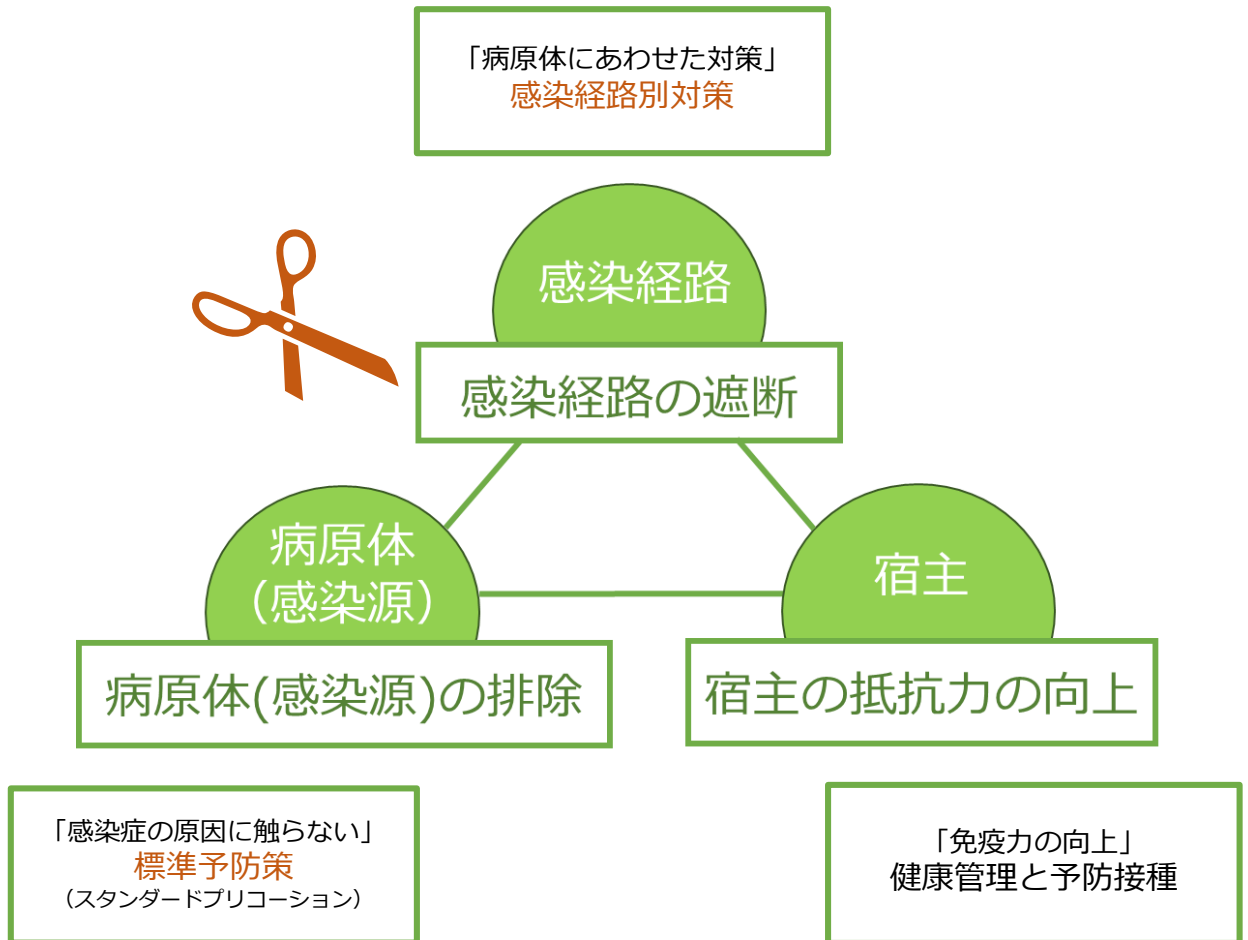
感染症はそれ自体を完全になくすことはできないものの、適切な感染対策を行うことで感染の拡大を最小限にすることができます。このマニュアルは江別保健所管内の医療機関で、感染管理を担う看護師の方々と感染対策に必要な概要を検討し、施設の感染予防と拡大防止を目的に作成しました。



北海道江別保健所
管内感染管理認定看護師
令和6年1月

感染症を防ぐには—感染が成立する3つの要因—

- ◆ 感染症は①病原体（感染源） ②感染経路 ③宿主の3つの要因がそろって感染します。
- ◆ 特に「**感染経路の遮断**」は感染防止のためにも重要な対策となります。



◆ 高齢者施設における感染防御の基本

- 1 | **病原体を持ち込まない** 手指衛生の徹底
- 2 | **病原体を持ち出さない** 個室管理や個人防護具の使用
- 3 | **病原体を拡げない** 個人防護具の適切な着脱、汚染物の片付け

感染経路の遮断においては、以下の点に留意しましょう。

- 施設内に入るときやケア前後の手指衛生
- 咳やくしゃみをしている場合等のマスク着用
- 血液、体液、分泌物、吐物、排泄物等を扱うときは
手袋を着用するとともに、これらが飛び散る可能性のある場合に備えて、マスクや使い捨てガウン(エプロン)を着用
- 居室・環境整備

標準予防策(スタンダードプリコーション)ー日常からの感染対策ー

◆ 自分以外の全ての血液、体液、分泌物（たん等）、吐物、排泄物、粘膜、傷等は感染源となり、感染する危険性のあるものとして取り扱うという考え方。日常から必要な対策です。

手指衛生

①血液等の体液 ②粘膜 ③傷があるなど正常でない皮膚

④ ①～③に触れた手指

①～③は素手で触らず、必ず手袋着用

手袋を外したあとは必ず手指衛生 = 流水石けん手洗い、または手指消毒の徹底

おすすめの研修内容！

研修の機会をつかって、スタッフの流水石けん手洗いの実践をしましょう

個人防護具の適正使用

◆ 血液、体液、排泄物等が飛び散る可能性があるときは、個人防護具（PPE）をつけましょう

◆ 目的に合わせて、PPEを選びましょう

◆ PPEを外した後は、必ず手指衛生を行いましょう



種類	目的	ケアの例
手袋	手によって運ばれる病原体から保護	オムツ交換、吐物処理、清拭、点滴、輸液交換等
目の防護 ※通常はアイシールド、フェイスシールドを使用する	飛沫や汚染物から目を守る	* しぶきが飛ぶケア 吸引、口腔ケア、飛沫が多い場合のオムツ交換等
サージカルマスク	鼻・口等に体液が入るのを防止	* 上記のようなしぶきが飛ぶケア * 咳などかぜ症状がある場合
N95マスク	空気中に漂っている病原体の吸引防止	* 結核等空気感染の対応 * 感染が疑われる場合の吸引、心臓マッサージ等 はN95マスクの使用が望ましい
使い捨てガウン エプロン	衣類の汚染を最小限にする	* 汚染物などの跳ね返りの可能性があるとき ケアの内容や暴露の程度によって、使い捨てガウンとエプロンとを使い分ける

目を保護するPPEの例
* 汚染、暴露の程度にあわせて選択します



アイシールド



フェイスシールド

咳エチケット

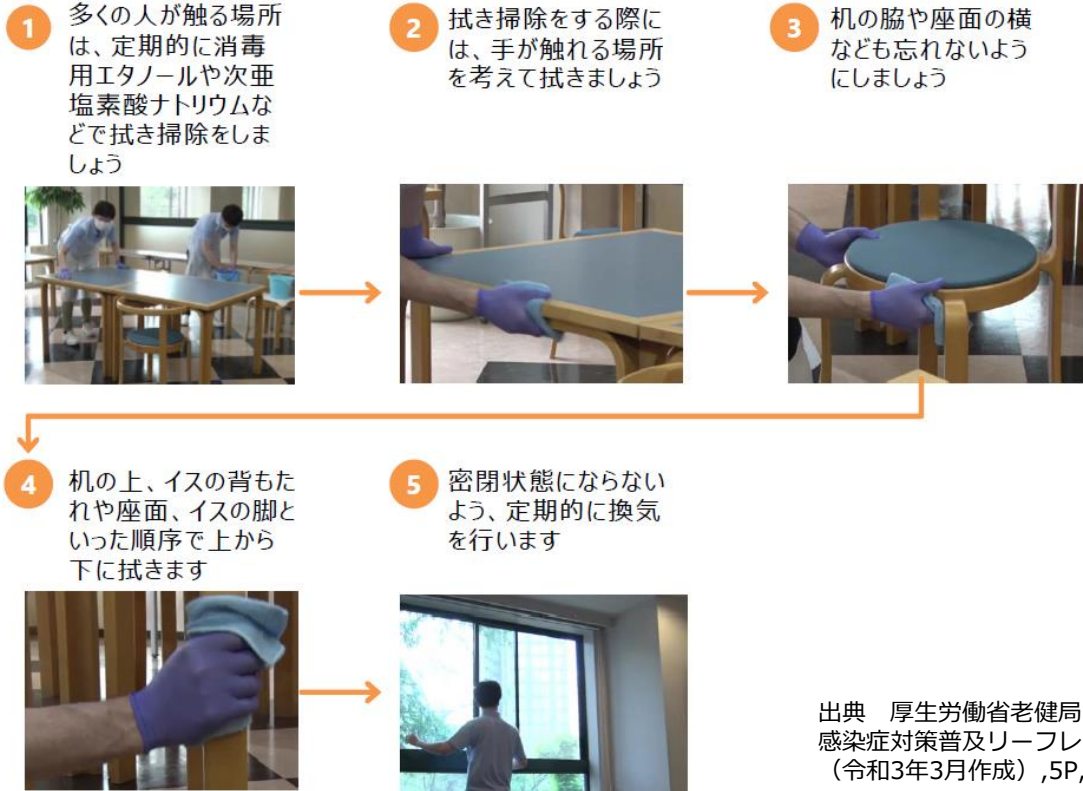
◆ 咳エチケットとは、インフルエンザ等の感染症を他人に感染させないように、咳やくしゃみをする際に、マスクやティッシュを使って口・鼻を抑えることです

◆ 使ったティッシュはすぐにゴミ箱に捨てます

◆ 咳やくしゃみを抑えた手はこまめに手を洗いましょう

- ◆ 環境整備前後の換気と手指衛生を徹底するようにしましょう
- ◆ インフルエンザ、ノロウイルス等接触感染が疑われる感染症の流行時には、手すりや物品など頻回に触れる場所を適した消毒剤、洗浄剤で定期的に拭きます

環境清拭の方法



よくある質問！

空間除菌が出来る商品や高性能の空気清浄機を使用している場合でも換気が必要？

【回答】

換気は空気の入れ換えを目的としているので必要です。換気と併用する場合は、空気清浄機は部屋の広さに合った物を選び、定期的にフィルターを清掃・交換しましょう。

消毒剤の使い分けの例

消毒剤	対象	医療機器
①物理的に汚染を除去する湿式清拭、除菌洗浄剤、第四級アンモニウム塩含	一般細菌	非感染者に使用した医療機器
②第4級アンモニウム+50%アンモニウム	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、インフルエンザ、アデノウイルス、食中毒菌など	感染者に使用した機器の場合、②または③で清拭後、さらに①で二度拭きする
③次亜塩素酸ナトリウム	ノロウイルス クロストリディオイデス・ディフィシル	

気をつけて！ノロウイルスにアルコールは効かない！！

アルコールでの消毒清掃が習慣化し、コロナの終息後にノロの集団発生があった施設が複数ありました。

感染症流行時は、原因にあわせて消毒剤を選択しましょう。

次亜塩素酸ナトリウム=塩素系漂白剤はスーパー、ドラッグストアでも手に入りやすく、安価です。下記に次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒液の作り方をご紹介します。



消毒液の作り方(次亜塩素酸ナトリウム希釈液)

一般的な消毒 ・ドアノブ、トイレ、リネン類、調理器具など 0.02～0.1%
 ・排泄物、おう吐物など 0.1～0.5%

0.1%次亜塩素酸ナトリウムの作り方

- 消毒液は、定期的に使用期限を確認し、期限切れに注意しましょう
 - 作った消毒液は、時間がたつにつれて効果が落ちていきます。作り置きは1日分としましょう
 - (目安) ペットボトルのキャップ2杯=10ml
- 一般的な台所用塩素系漂白剤=6%次亜塩素酸ナトリウム配合での作り方



感染経路別予防策—感染源にあった対策をしよう—

- ◆ 感染経路には ①接触感染 ②飛沫感染 ③空気感染 等があります
- ◆ 感染症発生時には、標準予防策に追加して感染源（病原体）にあわせた感染経路別予防策を行います
- ◆ この他、針刺し等による血液媒介感染やダニによる感染などがあります

感染経路	特長	主な感染源(病原体)	予防策
接触感染 (経口感染含む)	●手指/食品/器具などを介して伝播する頻度の高い伝播経路である	ノロウイルス 腸管出血性大腸菌 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 等	手指衛生 環境消毒 个人防护具
飛沫感染	●咳、会話等で、飛沫粒子(5μm以上)により伝播する ●1m以内に床に落下し、空中を浮遊し続けることはない	インフルエンザウイルス 新型コロナウイルス ムンプス 風しんウイルス 等	マスク着用 個室隔離 or 2m以上離す
空気感染	●咳、くしゃみ等で飛沫核(5μm未満)として伝播し、空中に浮遊し、空気の流れにより飛散する	結核菌 麻しんウイルス 水痘ウイルス 等	個室隔離&ス タッフは N95 着用

「送迎中に利用者が吐いてしまった！ 清掃や消毒をどうしよう！！」

現場の 困った！

これは、江別保健所の感染症予防研修会で多くの方からあった質問です。

標準予防策の考え方で、吐物も感染源になる可能性があるとして想定して対策します。

●送迎車内での対処に必要な物品●

- ・エチケット袋（すぐ取り出せる場所に設置する）
- ・个人防护具（マスク、手袋、使い捨てガウン(エプロン)、フェイスシールドやゴーグル等）
- ・同乗者用のマスク
- ・使い捨ての布やペーパータオル
- ・ビニール袋 等
- ・次亜塩素酸ナトリウム希釈液等の消毒液や洗浄剤

●施設内で事前に決めておく対応●

- ・おう吐者発生時、同乗者は車外で待機するか、車内で待機するか
- ・同乗者は施設までおう吐者と一緒を送迎するのか、別の車を手配するのか
- ・おう吐者は自宅に帰すのか、施設に一旦向かうのか

●車内でおう吐した場合の対応●すばやい応急処置と事務所への連絡

1 停車して換気&健康観察



2 个人防护具を着用



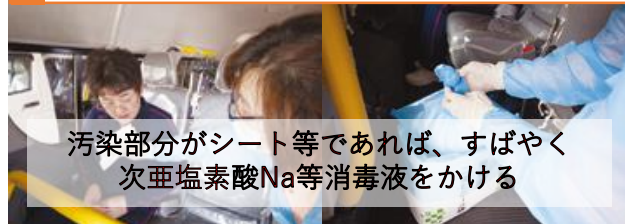
3 吐物を覆う



4 同乗者もマスクをつける

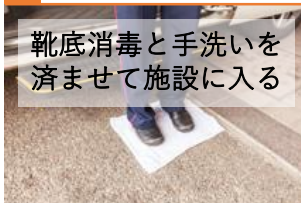


5 吐物はできるだけ拭い、廃棄袋に入れて密閉する



●施設到着後の対応●個室対応やコホート対応

7 施設到着（降車）



●おう吐者の対応●

- ・可能であれば車内で着替える。施設内で更衣を行う時は個室対応
- ・吐物が付着した衣類は二重のビニール袋で密封する
- ・体調に応じ、自宅療養や受診の手配をする

●車内の消毒●施設に戻ってから行います

- ・シートが革製やビニール製の場合は吐物を取り除き、拭き掃除をしたあとで、次亜塩素酸ナトリウム希釈液等で消毒する
- ・シートが布製の場合は、次亜塩素酸ナトリウム希釈液等を布にしみこませ、乾燥するまでは送迎車は使用しないことが望ましい ※布製のシートにはあらかじめカバーをつける



職員の健康管理

日々の業務において、利用者と密接に接触する機会が多く、利用者間の病原体の媒介者になる恐れが高いことから、職員の健康管理が重要となります。

入職時

感染症（麻疹、風疹、B型肝炎等）にかかったことがあるか、予防接種歴等について確認

日常

普段からの健康状態の確認
咳エチケットの徹底、感染症の流行状況に応じたマスクの着用

定期的

健康診断の受診を推奨

随時

ワクチンによる予防を推奨（インフルエンザワクチン 新型コロナウイルスワクチン）

有症時

有症時は所属の管理者へ報告、相談し、出勤は控える



利用者の健康管理

感染の拡大を防止するためには、早期発見や早期対応が何よりも大切です。

注意すべき
症状

発熱 嘔吐・下痢 発疹 咳・たん等のかぜ症状
いつもと様子が違う、ぐったりしている
これらの症状は、看護職員や医師に相談・報告
感染症の可能性を考慮して感染対策をする

日常

反応や表情の日常との違い、身体の様子の確認
栄養状態 食事摂取状況の確認、定期的な体温、脈拍、血圧等の測定

入所時

健康診断結果表、既往歴の確認

随時

ワクチンによる予防を推奨（インフルエンザワクチン 新型コロナウイルスワクチン、肺炎球菌）

新型コロナウイルス対策

疑うべき症状と判断のポイント

- 発熱・悪寒
- 鼻汁、咽頭痛、咳等かぜ症状
- 腹痛、おう吐等腹部症状

平時の対策

- 利用者、職員に必要性や副反応について十分説明し、ワクチン接種が受けられるよう配慮する
- 利用者で咳をしている人には、可能な限りサージカルマスクを着用してもらう
- 利用者の健康状態の把握を行い、体調不良時の違いに気がつくようにする
- こまめな換気を行う



感染疑い～発症時の対策

【個人防護具】

- 感染の疑いのあるものに、2m以内の距離でケアを行う職員はサージカルマスク、アイシールド等の目を保護するものを着用
- 痰の吸引等しぶきが飛ぶ処置の際には、N95マスク、使い捨てガウン（エプロン）を着用する

【隔離】

- 個室対応 または同症状の人を同室で対応する。陰圧室でなくてもよい。
(隔離の目安：学校保健法では「発症後5日経過し、かつ症状が軽快した後一日を経過するまで」と定められている。ただし、発症から10日を経過するまでは、マスクの着用を推奨する)
- 相部屋になる時は、利用者同士を2m以上離し、カーテンを閉めて同室者と接触させない

【移送】

- 病室外への移動は極力避け、移送する必要がある場合はサージカルマスクを着用する

【消毒・清掃】

- 接触箇所、周囲の環境はアルコール消毒液、次亜塩素酸ナトリウム希釈液等適切な消毒剤、洗剤で清拭する

インフルエンザウイルス対策

疑うべき症状と判断のポイント

- 発熱・悪寒
- 全身症状(頭痛、筋肉痛、倦怠感等)
- 鼻汁、咽頭痛、咳等かぜ症状

平時の対策

- 利用者、職員に必要性や副反応について十分説明し、ワクチン接種が受けられるよう配慮する
- 利用者で咳をしている人には、可能な限りサージカルマスクを着用してもらう
- 利用者の健康状態の把握を行い、体調不良時の違いに気づくようにする
- こまめな換気を行う
- インフルエンザ流行時は外泊、外出は最小限にする。かぜ症状のある面会者は面会を控えてもらう

感染疑い～発症時の対策

【个人防护具】

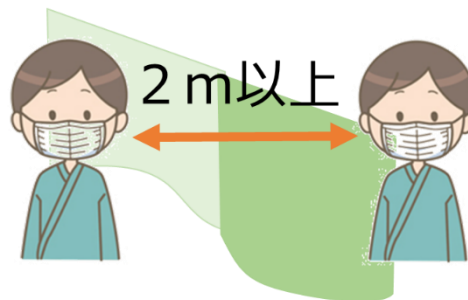
- 感染の疑いのあるものに、2m以内の距離でケアを行う職員はサージカルマスクを着用

【隔離】

- 個室対応 または同症状の人を同室で対応する

(隔離の目安：学校保健法では「発症後5日経過し、かつ解熱後2日(幼児にあっては3日)」と定められている)

- 相部屋になる時は、利用者同士を2m以上離し、カーテンを閉めて同室者と接触しないようにする



【移送】

- 病室外への移動は極力避け、移送する必要がある場合はサージカルマスクを着用する

【消毒・清掃】

- 接触箇所、周囲の環境はアルコール消毒液、次亜塩素酸ナトリウム希釈液等適切な消毒剤、洗浄剤で清拭する

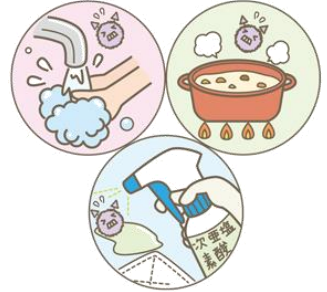
ノロウイルス(感染性胃腸炎)対策

疑うべき症状と判断のポイント

- 噴射するような激しいおう吐
- 水様便
- 吐き気、おう吐、下痢、発熱

平時の対策

- 職員は調理前、配膳前、食事介助の前後で流水石けん手洗いをおこなう
- 施設内で手の触れる場所（手すり、スイッチ、ドアノブ等）の清拭を
こころがける
- 吐物、排泄物処理セット(サージカルマスク、使い捨てガウン(エプロン)、手袋、ペーパータオル、ビニール袋等)を各所属で予め準備する。保管場所の周知を徹底する。
- 調理する人の健康管理 調理者に症状があるときは、食品を取り扱う作業をしないようにする
- 体液等が飛散している危険がある時（吐物、排泄物の処理時等）は感染の可能性を考えて、
サージカルマスク、使い捨てガウン(エプロン)、手袋を着用する



感染疑い～発症時の対策

【隔離】

- 症状が消失するまでは個室隔離が望ましい。部屋のドアは閉める。相部屋となる時は、同室の利用者と接触しないように、移動は最小限にする

【吐物・排泄物等の処理】

- 処理中は窓を開けて換気を十分にする
- 汚染した環境の消毒には次亜塩素酸ナトリウム希釈液を使う。注) 作り置きはしない
- 処理後のペーパータオル等はビニール袋でしっかり密閉し、蓋付きのゴミ箱に破棄する
- 処理後は、流水と石けんで手を洗う。アルコールは効かない
- 汚染したリネンはビニール袋に衣類を入れ、予洗いはせず0.02%次亜塩素酸ナトリウム希釈液に1時間以上浸け置き消毒してから、他のものと分けて洗濯する

ノロウイルス(感染性胃腸炎)対策

【清掃・消毒】

- 感染者が使用した食器や吐物がついたものは、他のものと分けて洗浄・消毒する。熱湯での加熱(食器洗浄機)も効果がある。
- 手の触れる場所(手すり、スイッチ、ドアノブ等)は次亜塩素酸ナトリウム希釈液等適切な消毒剤で消毒する。

解除時の注意点

- 症状消失後、最大4週間は排便内にウイルスが見つかることがあるため、排泄物に触れる際は留意する。



◀吐物処理セットの例

おう吐は突発的に起こることが多いため、迅速に処理ができるようにと物処理セットを用意しておくが良いです。

内容はサージカルマスク、使い捨てガウン(エプロン)、手袋、ペーパータオル、ビニール袋、バケツ、次亜塩素酸ナトリウム、空ペットボトル等です。

吐物処理のマニュアル、物品の確認と訓練等定期的な実施も良いでしょう。

参考文献・資料

- ・厚生労働省老健局：概要版 介護職員のための感染対策マニュアル(施設系) (令和3年3月作成) 2021.
- ・厚生労働省老健局:介護現場における感染対策の手引き 第3版,令和5年9月版.2023.
- ・厚生労働省老健局：感染対策普及リーフレット,令和3年版,2021.
- ・五十嵐隆監修:こどもの医療に携わる感染対策の専門家がまとめた小児感染対策マニュアル第2版,じほう,2022.
- ・INFECTION CONTROL 2020 vol.29 no.11,メディカ出版,2020.
- ・INFECTION CONTROL 2022 vol.31 no.12,メディカ出版,2022
- ・一般社団法人 全国デイ・ケア協会：安全感染管理マニュアル～送迎業務編～,2023
- ・金沢市保健所：～社会福祉施設等での感染性胃腸炎対策～施設利用者が突然おう吐したら…どうしますか?,2015.

地域の感染症対応力アップ 施設向け感染対応マニュアル 令和6年発行

石狩振興局保健環境部保健行政室（北海道江別保健所）

〒069-0811 江別市錦町4-1

TEL: (011) 383-2111 FAX: (011) 383-2185

《協力医療機関》

江別市立病院

医療法人溪和会江別病院

医療法人藤花会江別谷藤病院